



Nature's Splendor: Scenes of the Moon and Water

花鳥風月

水の情景・月の風景

The Museum of the Imperial Collections,
Sannomaru Shozokan

皇居三の丸尚蔵館



開催趣旨

私たちの生活のなかで美しい自然をあらわす言葉、「花鳥風月」。日本には四季折々の美しさがあります。美しい自然のなかでも水は、生命をつくりあげる重要な要素。気象では雨となり「花の父母」と言われるように、植物を育む恵みとなります。雨が集まり、川や滝となって、やがて海へと流れます。そして、月は、太陽とともに季節や暦を示す情報として、人間の生活に欠かせない標^{しるべ}でした。秋は空気が澄んで月が一年で最もきれいに見えると、江戸時代の書物にもあります。

本展では、自然の景色のなかで、雨などの水の景色や、月をあらわした風景などの作品を、皇室伝来の収蔵品のなかからご紹介します。

本展覧会の見どころ



広報画像1 《雪月花》^{せつげつ か} 上村松園^{うえむらしやうえん} 昭和12年(1937)

1. 季節によって表情を変える水と月の多様な表現を、皇室ゆかりの書跡・絵画・工芸品を通じて、ご覧いただきます。
2. 帝室技芸員*として活躍した^{うんのしょうみん}海野勝珉、^{なみかわそうすけ}濤川惣助、^{かわのべいつちよう}川之邊一朝、^{かがわかつひろ}香川勝廣、^{つかだしゅうきやう}塚田秀鏡らの工芸品と^{かわいぎよくだう}川合玉堂、^{はしもとかんせつ}橋本関雪、上村松園らの日本画など、近代日本美術の粋をご堪能いただけます。
3. ^{いとうじゃくちゆう}伊藤若冲・国宝《^{どうしよくさいえ}動植綵絵》や、上村松園^{せつげつ か}《雪月花》など、当館選りすぐりの名品を公開！

*帝室技芸員とは:明治23年から昭和19年にかけて、美術の奨励と庇後^{ひご}を目的として任命された美術・工芸家。

開催概要

名 称	花鳥風月一水の情景・月の風景 Nature's Splendor: Scenes of the Moon and Water
会 期	2024年9月10日(火)～10月20日(日)
休 館 日	月曜日(ただし9月16日、9月23日、10月14日は開館し、翌火曜日休館) ※その他諸事情により臨時に休館する場合があります
開 館 時 間	午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) ※ただし9月10日(火)は午後1時開館 毎週金曜・土曜は夜間開館。午後8時まで開館。(入館は午後7時30分まで) ※ただし9月27日(金)と10月18日(金)を除く
入 館 料	一般 1,000円、大学生 500円 ※高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、運転免許証、マイナンバーカードなど)をご提示ください。 ※障がい者手帳をお持ちの方およびその介護者1名は無料(予約不要)。
作 品 件 数	27件 ※出品作品は全て皇居三の丸尚蔵館収蔵
主 催	皇居三の丸尚蔵館
会 場	皇居三の丸尚蔵館 (〒100-0001 東京都千代田区千代田1-8 皇居東御苑内) [展覧会特設ページ] https://pr-shozokan.nich.go.jp/2024moonandwater/ [公式 Instagram] https://www.instagram.com/shozokan_pr/ アカウント名 @shozokan_pr
お問い合わせ	050-5541-8600(ハローダイヤル)
<p>【報道に関するお問い合わせ】</p> <p>皇居三の丸尚蔵館広報事務局(共同PR内) 担当:三井 〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10階 TEL: 03-6264-2382 E-mail: shozokan-pr@kyodo-pr.co.jp</p>	

皇居三の丸尚蔵館^{しゅうぞうかん}について

平成元年(1989)に上皇陛下^{こうじゆん}と香淳皇后により、皇室に代々受け継がれた美術品が国に寄贈されたことを機に、その保存と研究、公開を目的として、平成5年(1993)11月に皇居東御苑^{ひがしぎょえん}内に開館しました。

収蔵品は、各時代を代表する名品が多く含まれており、日本を中心とする東洋の美術工芸品のほか、幅広い時代、地域、分野の品々がみられることが特長です。

施設の拡充をはかり令和元年(2019)からは、新館の建設が進められています。令和5年(2023)には管理・運営が宮内庁から独立行政法人国立文化財機構へ移管され、「皇居三の丸尚蔵館」と名称も新たに一部を開館しました。令和8年(2026)度に全館開館を予定しています。



広報画像 11 皇居三の丸尚蔵館 外観

水のかがやき、月のきらめき—工芸品

古来、人間は、自らをとりまくあらゆる事象を、絵や立体で形にあらわしてきました。生きていくために必要なこと、身近なもの、それらが造形化されてきたといえます。そのなかで、天体や気象は、暮らしに密着した事象や宗教的な意味合いなどから、その図様をさまざまなものにみることができます。水の名所を表す瀟湘八景や、紫式部が『源氏物語』の着想を得たとされる石山寺の湖面の月など、古典を題材にした図様が、部屋を飾る調度品などにあらわされることもありました。ここでは、雨や滝をあらわしたものを、月をあらわしたものを、江戸時代から大正時代の漆工や金工などの工芸品からご紹介します。



広報画像 2
おうみほつげいまきえたな
《近江八景時絵棚》
 江戸時代(18世紀)



広報画像 4
しっぽうぼくがげつやしんりんずがく なみかわそうすけ
《七宝墨画月夜深林図額》 濤川惣助
 明治32年(1899)



広報画像 3
いしやまでらまきえ ぶんたい すずりばこ
《石山寺時絵文台・硯箱》 硯箱
かわのべ いっぢょう
川之邊一朝
 明治32年(1899)



広報画像 5
きんこうぎよくとずかびん ばんこやき
《金烏玉兔図花瓶》 萬古焼
 大正4年(1915)

◆“紫式部”関連作品（工芸品）

広報画像 2 《近江八景時絵棚》… 書棚の上部の引戸には、近江八景のうち「石山秋月」の情景が描かれています。

広報画像 3 《石山寺時絵文台・硯箱》川之邊一朝… 硯箱に紫式部、文台に湖面に映る月を表します。

紫式部は石山寺で琵琶湖に浮かぶ月を見て『源氏物語』「須磨」の帖の着想を得たと伝わります。

◆初公開作品 … たきざんすいまきえたんざくばこ ぞうひこ
《瀧山水時絵短冊箱》 象彦

水と月、四季のうつろい—絵画と書跡

日本では、仏画をはじめとした宗教画などを筆頭に、板や紙や絹に描かれた絵画作品が、古くから伝わります。また、中国で生まれた象形文字などから発展した漢字は、日本へ伝わり、やがて仮名が生まれ、さまざまな言葉や漢詩、和歌が書き綴られてきました。そうしたなかで、四季の自然の美しさを、月や雨の姿を写して絵画や詩歌であらわした作品が数多くのこされています。ここでは、皇室へ献上されたり、買上げられたりして伝えられた近代絵画と書跡から、春夏秋冬のなかでの雨、滝、月をあらわした作品をとりあげます。季節や時間によってさまざまな表情をみせる、変化に富んだ景色の美しさをご覧ください。



広報画像 6 《朝露》(左隻) 平福百穂 大正4年(1915)



広報画像 8
国宝《動植綵絵 梅花皓月図》
伊藤若冲 江戸時代(18世紀)



広報画像 7 《雨後》川合玉堂 大正13年(1924)



広報画像 9 《秋茄子》西村五雲 昭和7年(1932)



広報画像 10 《安宅切本和漢朗詠集》(部分) 伝 源俊頼
平安時代(12世紀)【場面替えあり】

※出品作品は全て皇居三の丸尚蔵館収蔵

◆“紫式部”関連作品（絵画と書跡）

広報画像 1 《雪月花》上村松園

画題は、雪、月、花にこと寄せた平安期の宮廷での雅やかな女性風俗であり、『枕草子』など古典文学に着想を得たと思われます。

広報画像 10 《安宅切本和漢朗詠集》伝 源俊頼

本作は安宅切本とよばれる『和漢朗詠集』の写本で、同集の撰者・藤原公任ふじわらのきんとうと『源氏物語』の作者・紫式部は、同時代を生きた才人です。このような写本は時代を超えて愛好されてきたことを物語ります。

関連イベント

展示室 de 作品解説

展覧会「花鳥風月」担当の研究員が、展示作品から数点ピックアップしてお話しします。どの作品の解説が聞けるかは当日のお楽しみ！

概要 開催日時： 9月20日(金)、10月4日(金) 18時35分～（20分程度）

会場： 皇居三の丸尚蔵館 展示室

料金 参加申込不要、参加費無料

※ただし当日有効の入館チケットが必要です。

特別鑑賞会（有料・事前予約制）

閉館後の皇居三の丸尚蔵館で、当館研究員による解説付き特別鑑賞会を開催します(各日 20名様限定)。

概要 開催日： 2024年9月27日(金)、10月18日(金)

開催時間： 18時～20時(17時45分～大手門にて受付開始、入館は19時まで)

※ただし研究員による解説は、18時～19時まで

※解説終了後19時～20時まで自由鑑賞

会場： 皇居三の丸尚蔵館 展示室

定員： 20名(満18歳以上の方が対象)

料金 参加費： 5,000円(税込)

当日の流れ 17時45分～大手門にて受付開始

18時～ 研究員による解説付き特別鑑賞会

19時～ 自由鑑賞(最終入館。19時以降は入館できません)

20時 最終退館

展覧会図録(「花鳥風月」)1冊をお渡しします。

イベントの詳細は当館公式ウェブサイトをご覧ください。